

【オーガ】

浅黒い肌、筋肉質の身体、頭のツノが特徴的な**ヒト亜族**である。エルフや人間とは近縁にあたる（彼らの大半は認めようとしないが）。排他的かつ攻撃的で近隣の他種族からはひどく嫌われている。近年まで魔物として扱われてきた彼らには様々な俗説が存在する。「オーガは雌が存在せず、さらってきたエルフや人間の女を孕ませて繁殖する」というものが代表的であろう。後半の文面は事実である。（そしてそれこそがオーガが我々ヒト亜族と遺伝子的に**近縁**と言える最大の証拠でもある）だがそれはあくまで副次的な繁殖方法であり実際はオーガにもメスが存在し、それとの繁殖を主とする。今回は謎に満ちた**オーガのメス**、その生態、繁殖について記していこう。

ペドロ教授の研究記録 オーガの生態

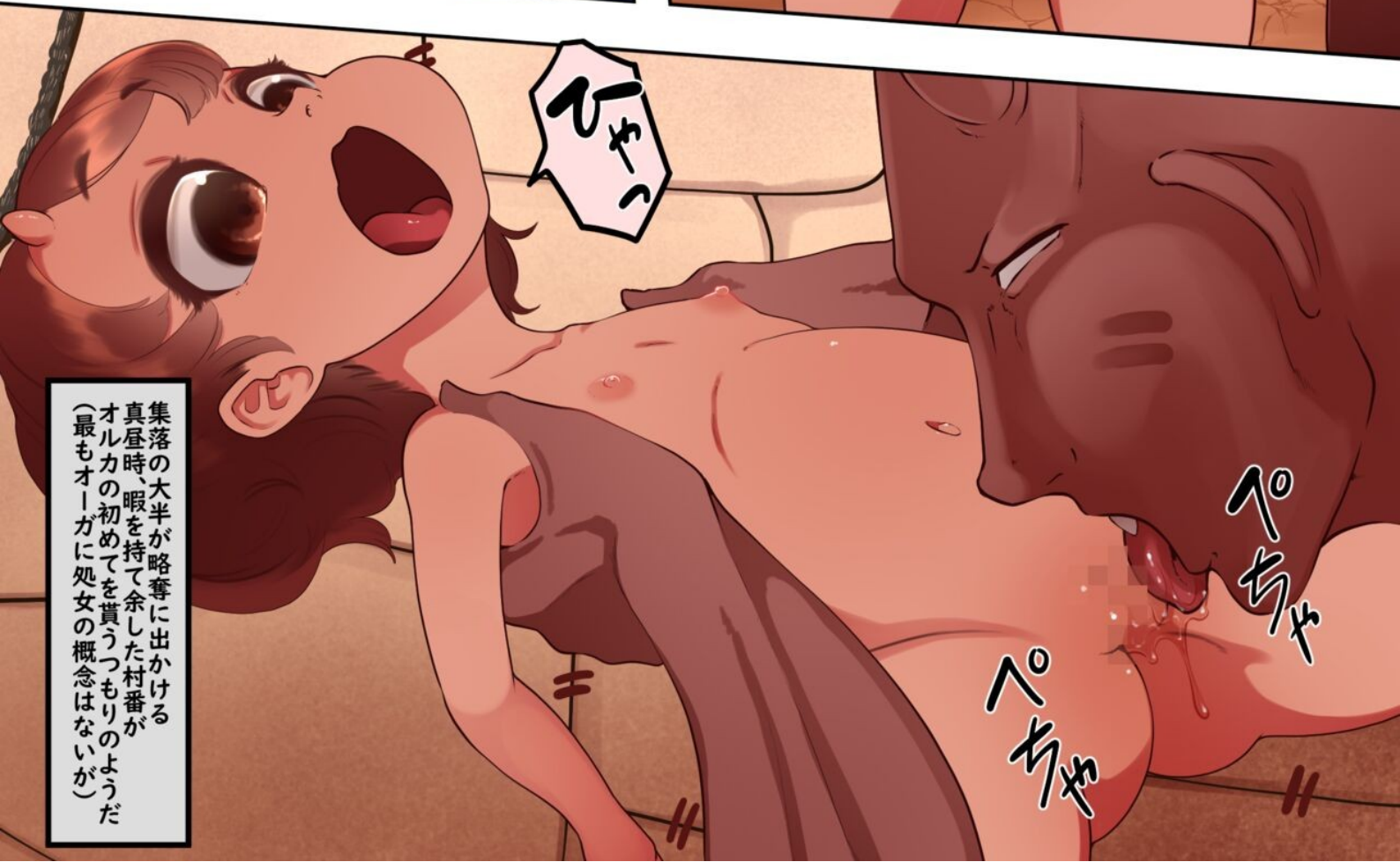


あうー

これがオーガのメス、驚くべきことに成体である。オスとは20倍以上のサイズ差がある。今回はこの成体になりたてのメス……オーガには名前の文化がないため、便宜上「オルカ」と名付ける。オルカの生活に密着していく

【学術メモ】

オーガのメスは生まれてからほとんど、身体的成長をしないし知性も発達しない、その代わり他のヒト亜族と比べると、驚異的な早さで妊娠出産が可能になる。オーガの社会的役割は繁殖のみであり、それに合わせた生存戦略がなされたと推察する。



集落の大半が略奪に出かける
真昼時、暇を持て余した村番が
オルカの初めてを貰うつもりようだ
(最もオルカに処女概念はないが)

オルカはこの行為をまだ
理解できていないようで
不思議そうに村番を見て
いる。
一方の村番はオルカの反
応など
気にも留めていないよう
だ。

?

おへー?

オーガが性行為をする際
メスに確認や求愛をする
ことは無い。
いわゆるレイプは全ての
ヒト亜種で見られる行
為だがオーガには
それが通常の性行為
なのだ。これはオーガ
の文化を知る上で非
常に重要な事実だ。



ぐい

べろお

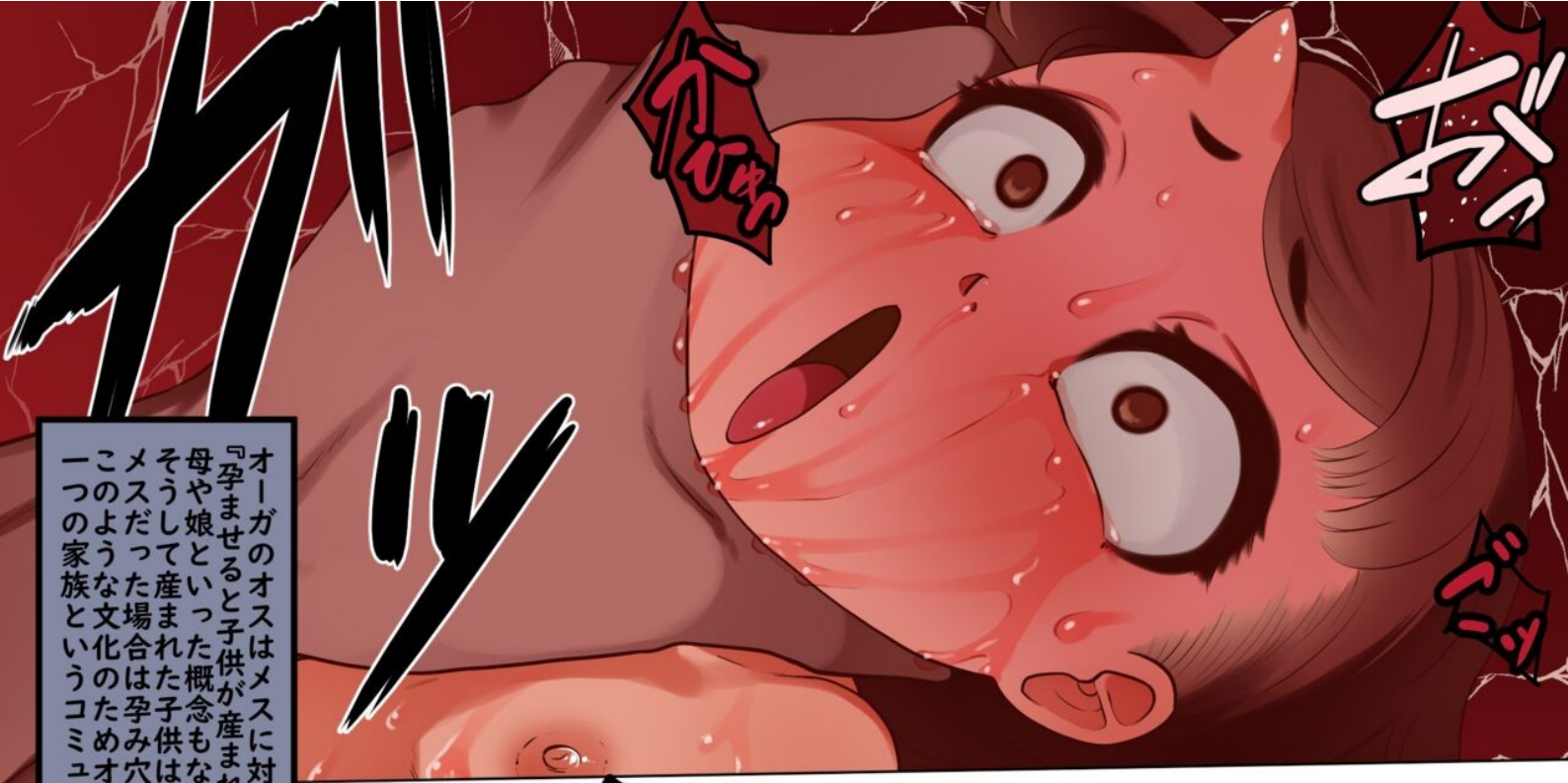


オーガの陰茎は非常に大きく、
メスの胴体ほどの長さがある。
これはメスの小さな膣口を
日常的に広げて出産をスムーズに
するためと考えられている。

メスの膣は深く陰茎の根元近くまで飲み込むことができる。これも体格の小さいメスが出産するための進化である

しかし性交の際は肺を含めた臓器を押し潰す形になるので大きな苦痛を伴うようだ

[illegible][illegible]

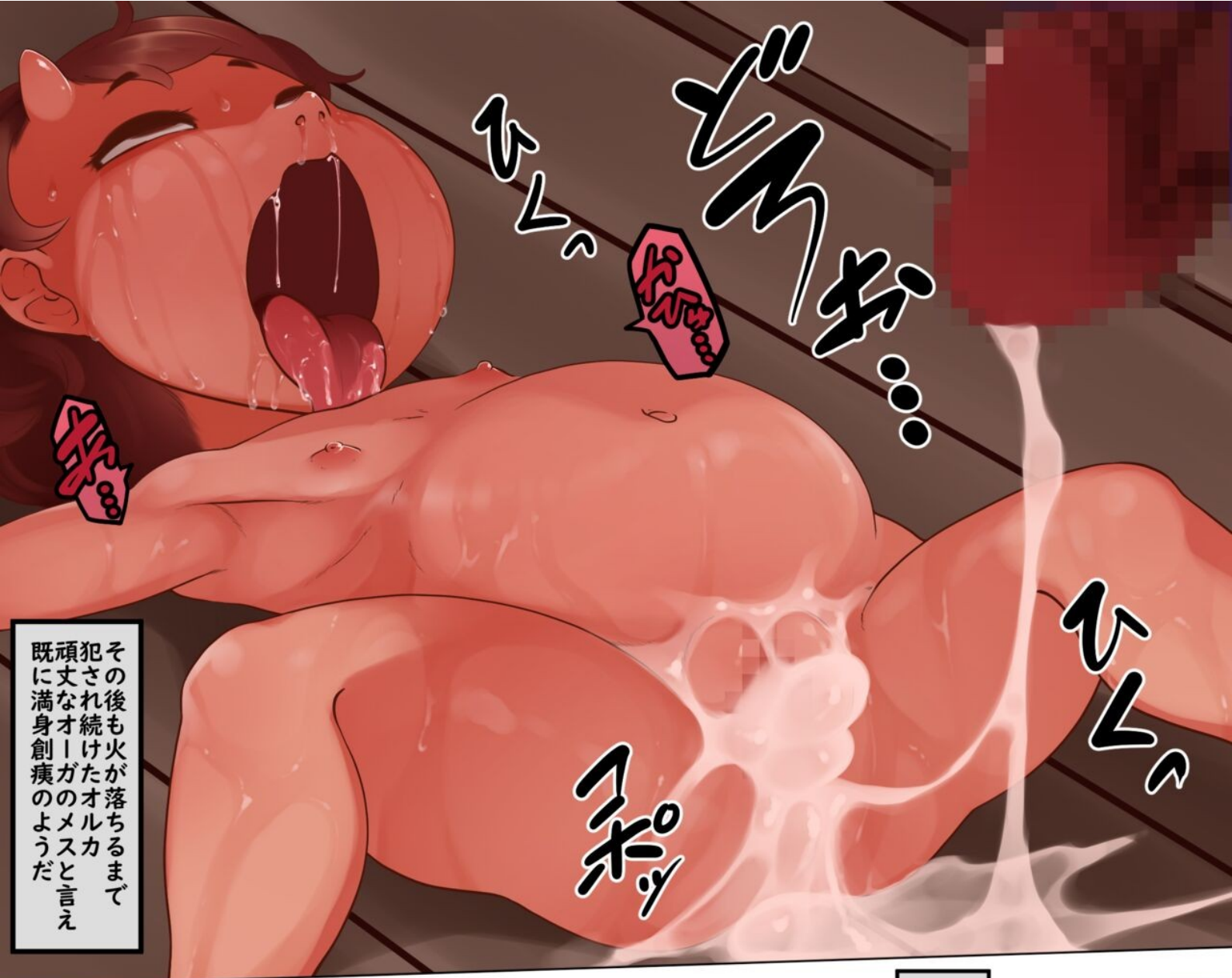


オーガのオスはメスに対して同胞意識を持たない。
『孕ませると子供が産まれてくる穴』程度の認識である。
母や娘といった概念もなく集落のオスたちが好き勝手に犯す。
そうして産まれた子供はオスだった場合は集落単位で育て兵士となり、
メスだった場合は孕み穴として犯され妊娠出産を繰り返す。
このような文化のためオーガに家系、血縁と言った概念はなく村全体で
一つの家族というコミュニティを形成している



オルカの悲鳴が村番を興奮させたのか
突然首を締め始めた。
オーガの性交は非常に暴力性が高く
一説によればメスの死因の8割は
性交中の事故死であるという。
他種族には理解できない行為だがこれも
強種族には子孫を残すための間引き行為
なのかもしれない。





その後も火が落ちるまで
犯され続けたオルカ
頑丈なオーガのメスと言え
既に満身創痍のようだ



夜になってオーガの偵察部隊が
帰ってきたのである
今度は一晩中彼らの相手をするのが
オルカの務めだ



しかしオルカの孕み袋
としての一日は
まだ終わっていない



オーガの集落の平均的な男女比は
オスが10人に対してメスが1人
出生率が半々に近い事を考えると
メスがどれほど過酷な生存競争に
晒されているかがわかる。

オルカはこれから毎日性欲旺盛な
オーガの相手を少なくとも10人は
することになる。



平均して一日22時間は輪姦され続け
喉を通すのはオスの精液か小便続け
弱った個体は見捨てられ野垂れ死ぬ
そして死ぬまで子供を産み続けるのだ



ゴッ
ゴッ
ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ
ゴッ

こうして出産適齢期になったメスは
孕み穴として酷使されることになる。
手足を縛られ専用の小屋に吊るされる。
これ以降メスが外に出ることは無く
残りの一生輪姦され続け、妊娠、出産のみを
死ぬまで繰り返す。

故に他の種族がオーガのメスを
視認する機会ほとんどなく、
オーガにはオスしかいないという
俗説が生まれたようだ。

さて、これにて最初の生態報告を
終わらせていただくが、調査隊は引き続き
孕み穴となったオルカの観察を続け
次回は妊娠、出産の過程を調査する。
ついでには研究費用の増大を――

